

事務事業名	エコライフ啓発普及事業			会計	一般会計		事業種別	経常	開始	23	終了	
H27担当課等名	環境モデル都市推進課	H27係等名	地球温暖化対策係	H26係等名		地球温暖化対策係						
基本計画上の位置づけ	政策	5	人の営みと自然・環境が調和したまちづくり									
	施策	55	日常的な環境負荷低減活動の展開									
目的	対象(誰・何を)	市民						指標名及び単位		26年度数値		
	意図(どういう状態にするか)	エコライフを実践し、生活を低炭素化することによる温室効果ガス削減						飯田市の人口(人)		102446		
	向上させたい上位施策の成果指標	飯田市全体の温室効果ガス排出量										
目標	種別	指標名及び単位			26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)			
	成果指標	温室効果ガス削減量(トン)			1950.1	3156	2671.3	2576.1				
	成果指標	温室効果ガス削減容量増加(トン/年)			1467.1	1679	1793.2	1824.1				
	定性目標											
事業概要	<p>1 エコライフ普及啓発事業 温室効果ガスの排出量が多い民生部門における低炭素化の取組や行動の啓発・普及を行った。民生部門の低炭素化は、衣食住において必要以上のエネルギーを使わないこと、すなわち環境負荷の低減であり、それが日常的な実践になるためには、様々なハウツーやアクティビティを発信し、特にエネルギー消費の多い世代を対象にし、体験してもらいながら理解と納得を得られるような取り組みが重要であるため、リンゴ並木のエコハウスを活用することで重点的に普及啓発を行った。</p> <p>2 飯田地球温暖化対策地域協議会運営 地域全体で地球温暖化防止を推進してゆくための市民組織である飯田地球温暖化対策地域協議会の活動を支援し、多様な主体の協働により温暖化防止活動を推進した。</p>											
	事業内容					名称			活動指標			
26年度事業内容	1 エコライフ普及啓発事業 (1)リンゴ並木のエコハウスへの視察・見学の対応 (2)りんご並木のエコハウス等を利用したエコカフェ事業 (3)エコライフコーディネーターの活用によるエコライフ普及啓発・広報掲載 (4)まちづくり委員会・各種団体等と協働したエコライフの普及啓発・PR				1 (1)来場者人数 (2)実施回数 (3)実施回数 (4)実施回数			1 (1)3,831組 10,345人 (2)68回 974人 (3)12回 (4)2回				
	2 飯田地球温暖化対策地域協議会運営事業 (1)協議会による交流事業及び会議の実施 (2)各部会による事業実施による知識向上を図る視察研修				2 (1)実施回数 (2)実施回数			2 (1)16回 (2)2回				
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足						
事業費計(千円)①		3,630	3,170	3,063	3,234							
国庫支出金												
県支出金		3,374										
起債												
その他												
一般財源		256	3,170	3,063	3,234							
人件費計(千円)②		10,013		2,421								
正規職員所要時間		2,800		677								
臨時職員所要時間												
総事業費①+②		13,643	3,170	5,484	3,234							
事業内容・目標達成状況の振り返り	エコライフコーディネーターを活用しての親子を対象とした普及啓発活動を行うことが出来、エコハウスの来場者数は昨年に続き年間1万人に到達した。広報いいたを利用した普及啓発は、予定通り通年で実施することが出来た。飯田地球温暖化対策地域協議会は、活動強化のため、部会制を取り入れる等の見直しを実施した。											
改革改善の考え方	①問題点	飯田地球温暖化対策地域協議会の組織見直し後の人材育成も含めた活動のあり方の検討が必要。また、活動が鈍ることがない様に、会員相互の関係を密にし活動に対する意識の向上が必要。										
	②改革提案	飯田地球温暖化対策地域協議会の各部がより活動的となるよう、必要に応じた定期部会の開催をし、会員相互の関係構築と実際に動ける体制・人材づくりを行う。また、長期的な展望に立った協議会存続のための後継者育成を行う。										